

幼稚園教育実習指導における保育者としての課題

—「生活者として」の力をつけるためにマスターペーパーを活用する—

The subject for a childcare person in kindergarten practice teaching
-"Master paper" it utilizes "" as a Seikatusha(Those who live)""
for skills are improved-

神戸洋子

(こども学科 専任教員)

埼玉純真短期大学では幼稚園教育実習の事前・事後指導通年授業で、毎回の授業内容を「ふりかえり」という形で確認させた上で配布する「ワークシート」での問いかけ、タイムテーブルで自分がどの位置にあるか自覚させる。特に『自己課題(理解)シート』を用いて課題、不安、悩み、期待を考えさせた上で「マスターペーパー」で課題設定をさせ、短期的、中期的、長期的課題を「生活者として」「保育者として」の二面から設定させる。「生活者として」の意識の希薄化が進む学生にとって、この課題設定は実習の円滑な遂行と共に将来を見据えた自己研鑽に繋がるものである。

【キーワード：幼稚園教育実習 事前事後指導 課題設定 自己研鑽】

保育者を養成する大学、短期大学、専門学校における実習指導は、事前指導、実習中の巡回指導、事後指導の形を取る。幼稚園教育実習指導内容は、実習園の理解、実習園在園児の発達理解、教育要領などを通じての制度理解を基に、非常に多岐にわたる内容の指導が要求される。実習園の決定、実習生調書の記入、オリエンテーションの受け方、実習テーマの決定、日誌、指導案の作成といった項目に加え、挨拶の仕方、服装や出勤時のマナーなどの実務的な指導も必要となる。教育実習を受け入れる幼稚園側は実習生として、こうした事前指導の行き届いた学生を受け入れるものと考えられるが、特に近年、教育実習時に実習園から指摘されることとして保育技術以前の「生活者」としての未完成な部分への言及が多くなっている。具体的には、「挨拶ができない」「ぞうきんが絞れない」「体調管理が出来ず、実習中に休んでしまう」などの指摘である。また、良い評価も保育技術や観察記録の書き方よりも「掃除が上手」「細かいことにも気が付く」など生活者としての部分で受けることが多くなっている。

また実習生だけに限らず、保育者として現場に立つ職員についても同様のことが言える。保育は保育者と子どもたちとの日常生活の中で行われるもので以前は、保育者は「生活者」として一人前であることは当然とされてきた。しかし、現在資格を取得して保育に従事している保育者であっても、一人ひとりが必ずしも「生活者」として一人前であるとは言い難い

状況なのである。

実習生の段階でこそ「生活者として」の自覚を持たせること、「生活者として」の自己研鑽が急務であると思われる。

幼稚園教育実習に関して埼玉純真短期大学では事前、事後指導を「実践研究(幼稚園)」の名で通年授業とし、毎回の授業内容を「ふりかえり」という形で確認させる指導を徹底しているが、特に重視していることに「生活者」としての意識づけがある。埼玉純真短期大学独自の方式として採用しているのは「マスターペーパー」という課題設定である。これは1983年開学の翌年1984年より大戸美也子教授の指導によって始められ、小川清実教授によって継承されてきた教授方法で、「短期大学2年の秋におこなわれる責任実習を中心とする幼稚園教育実習のために、夏休みに学生たちがマスターしておきたい生活上あるいは技術上の課題を各自が挙げ、成就させるプログラム」[1]である。小川教授によって入学直後から実践させるプログラムとしたこともあが、現在は再び夏休みの課題として行っているものである。

1. 「マスターペーパー」とは

(1) 「マスターペーパー」とは

「マスターペーパーとは、プロの保育者として自立するために、正しく自己分析を行い自己の課題設定をし、その解決に向けた計画を具体的に表現したもので」「ここでなぜ、自己分析を大事にするか」というと、つまり、保育者であるということは、一社会人としての当然あ

るべき姿、生き方を前提としながら、さらに、専門職としての知識、教養、理念、技術、姿勢などが付加した、また生かされた、常に成長し続ける存在として理解されるのだと考えられるからである。」と設定している。(マスターペーパー用紙は本論最後に載せたものを使用している。)

(2) 自己分析

- 「私はなぜ保育者になりたいと思うのか」
- 「どのような保育者になりたいと思うのか」
- 「それはなぜか」
- 「プロの保育者として自立するために、何が私に必要か」

の4項目に関して自己分析をさせる。

(3) 「自己課題」

「保育者として」「生活者として」の二項について、マスターペーパー上で自己分析を行った上で、それを課題として設定させる。

課題は短期的課題が後半実習に向けて、中期的課題が卒業時まで、長期的課題が就職して1、2年の自分を想定という3つにわけ、「生活者として」「保育者として」とそれぞれ学生自身が自分を振り返って自分なりの課題を設定する。[2]

短期的課題については、課題解決に向けた具体的な計画ということになる。そして夏休みにそれぞれが実践を行う。「生活者として」では、毎日規則正しい生活をする、といったものから家族のために祖母の介護を手伝う、食事を作るなどの日々の活動を、「保育者として」では、ピアノパネルシアターなどである。成果は夏休み明けに報告書、作品などの「成果物」という形で提出し、この中でも課題を達成できたか、自己の問題点は何かをまとめさせる。

自己課題		
期間/項目	生活者として	保育者として
長期的課題		
中期的課題		
短期的課題		

2. 自己理解シート、ワークシートの活用

毎回の授業時に「ワークシート」を配布し「振り返りをしましょう」「確認はできていますか」「全体のかかりの中での自分の取り組む姿勢はどうか」と

いった問いかけを常に行うと同時に、実習までのタイムテーブルも配布し、常に自分がどの立場にあるかを自覚させている。

実習事前指導では「心配なこと」等を書かせた上で、その場で発表させ課題を全体で共有する。

この段階で課題解決のできていない学生を把握することで、きめ細やかな個別対応が出来るのである。

平成18年度は160人を3名の教員で担当、平成19年度は80人づつに分け同じく3人で担当したが、授業はあくまでも全体指導なので、課題解決のできていない学生には個別対応をしてきた。

乳幼児保育学科では、実習指導は2年生の4月から、2月までの通年授業で、幼稚園教育実習は5月に2週間、10月に2週間としている。[3]

また、小学校教諭資格を取得できるこども学科では、2年生10月に小学校教育実習を組んでいるため、1年生の2月に2週間、5月に2週間の幼稚園教育実習を実施している。この実習指導授業は1年生の9月から2年生の8月までとしている。[4]

いずれの場合も通年授業の半ばの時期に実習が位置しているため、事後指導にも多くの時間を割くことができる体制である。

この際、『自己課題(理解)シート』を用いて「前半実習で残した課題」「不安なこと・悩み」「楽しみなこと・期待」を書かせ、課題や不安は「どう解決したいか」楽しみなことや期待を「実現するためには」と考えさせ、これをもとに課題設定を行っている。

こうして自分の状態を把握させるのである。

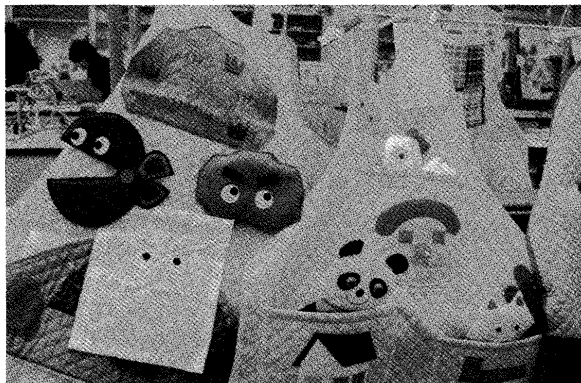
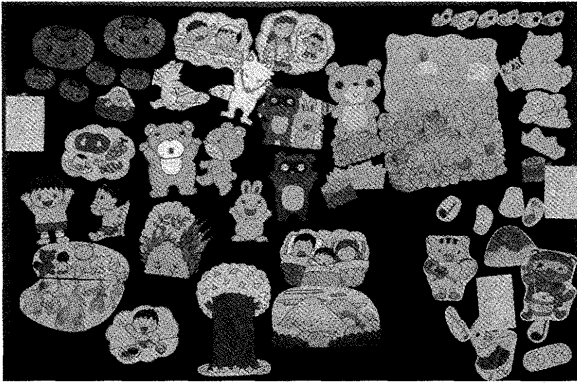
自己理解シートに基づいて作成した「マスターペーパー」の課題に、夏に達成できた部分を自ら赤ペンでチェックしている学生もいる。この時点で前半実習事後指導としての個人面談も行うので、課題が達成されたかの確認も教員との間で行うことが可能となる。

3. 課題達成の発表(学園祭にて)

成果は報告書、作品などの形で提出し、課題を達成できたか、自己の問題点は何か検証した上で、成果を学園祭の場で展示し、保護者、同級生、後輩など多くの人々に見てもらおう。

成果はピアノの練習曲をファイリングして整理したもの、実習で使用するパネルシアター、エプロンシアター、ペープサートなど時間をかけて作成した教材、自分のものとしてマスターした手遊びのリストなど、「保育者として」の成果物が多いが、中には毎日家族のために作った食事やお弁当の写真をファイリングしたもの、自分で縫った雑巾など「生活者として」の課

題の達成結果を提出する学生もある。



また実習中親に起こしてもらわないと起床できなかった学生が基本的な生活習慣を見直そうと「規則正しい生活を心がける」と課題設定する、実習中に食生活の乱れから体調をこわした学生が「一日三食規則正しい食事をする」といった課題設定をするなど自己の生活能力の未熟さに気づいて生活を見直す姿も見られた。以前であれば自己の生育暦の中で当然獲得されると思われた能力が身につけていない学生たちが増えてくる現在、このような自己を見つめ、夏休みという期間を利用して時間をかけて自己トレーニングしていくことは、有効性があると考えられる。



4. 課題達成の発表と展開（後輩に伝える）

責任実習を終えた後、1年生の後輩を園児にみたくて実習報告会の形でデモ授業を組み立てている。

10月の実習を終えた後、事後指導の時間が比較的余裕をもって準備されているため、事後評価以外にも多くの反省、自己評価を行うことが可能である。責任実習を終えた後であるので1年生の後輩を園児にみたくて実習報告会の形で授業を組み立てる。この際1、2年生のグループ分けで同じ地域の学生をひとつのグループとすることによって、1年生は来年度実習に行く地域の園についての情報も得られ、卒業後も同じ学校の出身者として情報交換をする繋がり方に発展する場合もあるというメリットがある。

また、2年生は、この場で何人もの後輩に対して自分の行った実習経験を披露し、実習日誌の書き方を伝授し、実習園の先生方から何を学ぶつもりで行くのがよいかを伝達することで、自分自身の実習を客観的に振り返り、人の前に立つことに自信をつけていく。

5. 事後指導の展開と自己課題

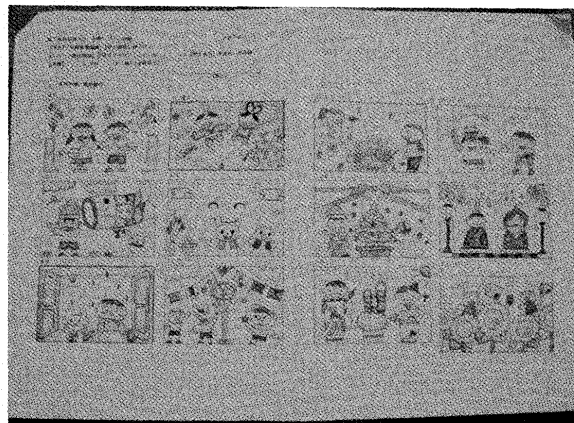
事後指導の中では時間をかけて、お礼状の書き方指導、指導案とその評価の記入の仕方、園だよりの作成などを指導するほか、年間の季節や行事に合わせて、どのような絵本を与えるか、どのような手遊びがその時期にふさわしいか、どんな制作活動があるか、どのような季節の歌があるかなど、一覧表を作成させる。下記に5月の例を挙げる。

歌の作曲者名、作詞者名も調べ確認する。絵本の作家名、出版社などを確認するために実物の奥付にあたって、書誌事項を見るくせをつけさせる。行事の由来は、保育の中で園児にわかりやすく説明できるような内容をまとめさせる。

5月				
歌	絵本	手遊び	製作	行事
歌	作詞	作曲	作曲	
歌	作詞	作曲	作曲	
行事				
行事	作家	画家	出版社	
行事	作者	出版年	出版社	
行事	作者	画家	出版社	
行事	作者	出版年	出版社	
行事	子どもの日			
行事	母の日			

また、保育室壁面をどんな装飾でかざるか12ヶ月分考えさせている。最近の傾向としては、月刊保育絵本やインターネット上でかわいい絵が例示されてお

り、それを安易にカラーコピーして使う保育者が増えているが、こうして学生のうちから年間のアイデアをストックしておくことで、現場に立ったときにオリジナルの装飾を心がけるようになる。



また、廃材制作の工夫、折り紙ノート、絵本ノートなど、将来保育者となった時に役立つ実践記録の事例をいくつか作る訓練もさせる。事後指導期間に個人面接を実施するため、面接学生以外の者は図書館などで自分のペースでこれらの課題研究を行うこととなる。

卒業生の多くがこの期間に作ったノートを現場の保育者となってからも活用させている。

6. 「マスターペーパー」上の自己課題

自己課題として学生が設定したもののどのような課題があるかを「生活者として」「保育者として」のそれぞれについて列記する。(2007年度2年生156名中131名回答)

(1) 「生活者として」(()内は回答数 複数回答)

- ・生活リズム・早寝早起き・規則正しい生活 (100)
- ・体調管理・自己管理 (46)
- ・体力づくり・適度な運動 (20)
- ・挨拶・笑顔・コミュニケーション (18)
- ・言葉づかい・敬語 (34)
- ・自立する生活力 (10)
- ・常識的行動 (6)
- ・礼儀・マナー (10)
- ・大人の自覚 (10)
- ・幅広い視野 (4)
- ・新聞を読む・読書する (10)
- ・文章力をつける (2)
- ・家事 (家事全般) (21)
- ・部屋の片付け・掃除 (27)
- ・料理・偏食をなくす・お弁当を作る (33)

以上の記述から、学生の多くが、生活リズムを規則正しいものにすること、教員として勤まるだけの体力を持つようとしていること、社会人としての自覚を持つようと考えていることが見える。本学学生は実習園から、挨拶がきちんとできる、遅刻が少ないなど高い評価をいただいているケースが多いが、学生の側からより一層の努力が必要であると考えていることも判明した。また、若者ことばを社会人としては改めたいと考えていることも判明した。

夏休みの課題として、お手伝いの枠を超えて家事こなし、身近な生活力を高めようと考えていることも見えてくる。

(2) 保育者として (()内回答数 複数回答)

- ・保育技術全般 (導入・展開・対応) (17)
- ・教材研究全般 (17)
- ・ピアノ (50)
- ・手あそび・ゲーム (73)
- ・絵本・紙芝居・読み聞かせ・素話 (41)
- ・パネルシアター (38)
- ・エプロンシアター・ペープサート (14)
- ・折り紙 (2)
- ・指導案・日誌 (13)
- ・実習準備・反省 (9)
- ・保育者の視点 (38)
- ・子ども理解 (子どもへの声かけを含む) (57)
- ・保育の流れを理解 (14)
- ・子育て支援 (6)
- ・自立 (自分自身の) (5)
- ・礼儀・マナー (5)
- ・笑顔 (9)
- ・字を丁寧に書く (5)

以上の記述から、ピアノの上達、手遊びのレパートリーを増やす、絵本紙芝居を読む技術の向上など、学生の間時間に時間をかけて、研鑽を積むことに加えて、子ども理解・保育者としての視点の獲得、保育の流れを学ぶことなどにも多くの時間を割きたいと考えていることが判明した。また、「生活者として」に挙げた項目と同じ礼儀や笑顔などを保育者としての大切な資質と考え、あえて「保育者として」の項目にも挙げる学生がいる。

7. 「マスターペーパー」への学生の評価

これらの自己課題は実習期間を含めた指導期間に達

成できたのであろうか？アンケート結果（2007年度2年生156名中129名回答）によると、

(1) 課題は達成できたか

はい38%	いいえ10%	どちらともいえない52%
-------	--------	--------------

「生活者として」の項目が達成できたかの質問には

はい61%	6%	どちらともいえない33%
-------	----	--------------

↑いいえ

「保育者として」の項目が達成できたかの質問にはとなり、具体的にピアノを練習する、パネルシアターを作るなどの課題の方が達成しやすいことが見える。

(2) 実際の実習で役に立ったか

幼稚園実習場面で実際に役立ったのを質問には

はい73%	7%	どちらともいえない26%
-------	----	--------------

いいえ↑ ↑どちらともいえない

「生活者として」の項目が役立ったかの質問には

はい67%	6%	どちらともいえない28%
-------	----	--------------

いいえ↑ ↑どちらともいえない

「保育者として」の項目が役立ったかの質問にはとなり、少しではあるが「生活者として」の項目の方が役立ったという回答が多かったのである。具体的には「早め早めの行動が出来る」「規則正しい生活が出来ていることが見受けられる」「準備の手順が良い」などと実習園からの評価をいただいたとのことである。

「保育者として」は、課題を夏休み中に「成果物」として制作していたため、小道具などの準備を自己紹介、パネルシアター、エプロンシアターを用いた責任実習、練習を重ねたピアノ伴奏、手遊びなどを良く評価していただく結果に繋がった。

8. まとめ

『自己課題（理解）シート』によって、自己を振り返り、短期的課題として、マスターペーパーを活用することで、具体的に自分の立ち位置を振り返らせる作業を繰り返し継続させ、実習という保育者としてのねらい、子どもとのかかわりのねらいなどがより明らかになる場面において先を読んで行動することを体験させることは、現場に就いてからの自分を「生活者として」あるいは「保育者として」見つめなおすこととな

り、自己研鑽に繋がるものであろう。

また、卒業までの中期的課題、卒業後も見越した長期的課題をことばにすることで、「私生活」から就職に繋がる「公的生活」へと意識を高めることにも効果を見せている。

但し、この中期的課題、長期的課題の時期であるが、7、8年前までは、中期的課題が、卒業後2、3年、長期的課題は卒業後5、6年以降を想定できたのであるが、最近の学生の傾向として、5、6年先の自分を想定することが出来にくくなっており、中期的課題を卒業まで、長期的課題を卒業後2、3年と設定しなおしたのである。資格を取り、それを生かした職に就くことが、一生の仕事に繋がりにくい社会事情の反映でもあろう。

注

[1] 大戸美也子・春原由紀「実習生サポート・プログラムの試み—行為法による実践—」埼玉純真女子短期大学研究紀要第9号

[2] 中期的課題、長期的課題の時期を2006年度より短縮した最近の学生の人生設計の意識の変化、長期的就労意欲の低下など、社会情勢の変化について今後の目配りが必要であろう。

[3] 保育士資格取得の実習は1年生の1-3月の施設実習、7月の保育所実習である。

[4] 短期大学であるのでこども学科の学生は2年間では、保育士資格までは取得できない。小学校2種及び幼稚園2種免許を取得して卒業した後に保育士も希望する学生は卒業後科目等履修生として、単位取得している。

参考文献

小川博久・林信二郎『保育者論』樹村房、2002、
小川清実「保育実習生の生活体験の欠如をどう克服するか—現代の保育者養成の課題のひとつとして」1994年日本保育学会発表論文集、p.172-p.173
大戸美也子・春原由紀「実習生サポート・プログラムの試み—行為法による実践—」埼玉純真女子短期大学研究紀要第9号

付記 本稿の一部を2007年9月29日の教育方法学会研究大会（京都大学）において「幼稚園教育実習指導における個々の課題設定と展開（1）」として発表したことをお断りいたします。

付表

1. 埼玉純真短期大学「実践研究（幼稚園）」『マスターペーパー』

《自己評価と課題設定》

平成 年 月 日作成

マスターペーパー

【学籍番号】	【氏名】	【取り組んだ期間】 年 月 日 ~ 年 月 日
--------	------	----------------------------

1 マスターペーパーについて
 マスターペーパーとは、プロの保育者として自立するために、正しく自己分析を行い自己の課題設定をし、その解決に向けた計画を具体的に表現したものであること。
 ここで、なぜ自己分析を大事にするかというと、つまり、保育者であるということは、一社会人としての当然のあるべき姿、生き方を前提としながら、さらに、専門職としての知識、教養、理念、技術、姿勢などが付加した、また、生かされた、常に成長し続ける存在として理解されるのだと考えられるからである。

2 自己分析

- 「私はなぜ保育者になりたいと思うのか」
- 「どのような保育者になりたいと思うのか」
- 「それなぜか」
- 「プロの保育者として自立するために、何が私に必要なか」

3 自己課題

期間\項目	生活者として	保育者として
長期的課題		
中期的課題		
短期的課題		

4 課題解決に向けた計画（夏休みを利用した短期的課題）
 （実施状況を、スケジュール欄に朱書きしていく）

課題 月日	生活者として	保育者として
	【スケジュール】	【スケジュール】
自己評価		

5 新たな課題（中期、長期的課題への関連）

- (1) 生活者として
- (2) 保育者として

2. 埼玉純真短期大学「実践研究（幼稚園）」『自己課題（理解）シート』

2. 埼玉純真短期大学「実践研究（幼稚園）」『自己課題(理解)シート』

年 組 番号
名前()

後半実習に向けて
自己課題（理解）シート

「前半実習で残した課題」	「不安なこと・悩み」	「楽しみなこと・期待」
どう解決したいか	実現するためにどうするか	
人、本、情報…いろいろ活用して解決しましょう		

—どんな実習にしたいか—

- 1 ねらい（自分にとっての目標、夢、努力事項など何でも）
- 2 保育（教育）者としてのねらい（目標）
- 3 子供とのかかわりでのねらい（目標）
- 4 「職場」で働く人間としてのねらい（目標）

自分の思いを自由に書きましょう。

3. 埼玉純真短期大学「実践研究（幼稚園）」マスターペーパーについてのアンケート用紙
(2007年12月実施 2007年度2年生156名中129名回答)

実践研究（幼稚園）アンケート

2007. 12

A. 実践研究（幼稚園）で行っている「マスターペーパー」についてお尋ねします。

1. あなたは、幼稚園資格と保育士資格、両方の免許希望ですか？

- (1) はい (2) いいえ

2. 夏休みの課題として、「マスターペーパー」の記入をしました。その中で、「生活者として」「保育者として」の2項目がありました。それぞれ、課題を作ったと思います。振り返りカードでも確認しましたがそれらの課題は達成できたでしょうか？

2-I 「生活者として」（規則正しい生活をする、掃除を上手になるなど）は達成できましたか？

- (1) はい (2) いいえ (3) どちらともいえない

「生活者として」の自己課題は、幼稚園実習で役立ちましたか？

- (1) はい (2) いいえ (3) どちらともいえない

2-II 「保育者として」（ピアノ、手あそび、パネルシアター、エプロンシアター製作など）の自己課題は達成できましたか？

- (1) はい (2) いいえ (3) どちらともいえない

「保育者として」の自己課題は、幼稚園実習で役立ちましたか？

- (1) はい (2) いいえ (3) どちらともいえない

幼稚園の先生方からの評価、感想などがありましたら、お書き下さい

3. 1. の問いで (1) はいと答えた方（両方の免許希望の方）にお尋ねします。

(いイエの方は、4. に飛んで下さい。)

「生活者として」の自己課題は、保育所実習で役立ちましたか？

- (1) はい (2) いいえ (3) どちらともいえない

「保育者として」の自己課題は、保育所実習で役立ちましたか？

- (1) はい (2) いいえ (3) どちらともいえない

保育所の先生方からの評価、感想などがありましたら、お書き下さい

4. 「マスターペーパー」保育者としての成果物を純真祭で展示しました。

後輩、見学者からの反応などを聞かれましたか？評価、感想などを聞かれた方はお書き下さい。

5. 「マスターペーパー」「生活者」としての自分を考えるというのは、純真独自のやり方です。今後の後輩たちのために、工夫した方が良くと思われることがありましたら、ご記入下さい。

ご協力ありがとうございました。実践研究（幼稚園）担当者